

ヤマトビイロトビケラ 新たに見つかる

岡山市御津高津の妙見山の標高約100mの林の中で、2005年2月下旬にヤマトビイロトビケラの筒巢を、息子が見つ付けてきました。

3月21日に二人で探しに行きました。かなりの急傾斜でしたが林の中に6m程入り、コナラの木の根元で落ち葉を除けて、細い木の枝でソーッと土をかいて探すと、3分程で2匹の幼虫が出てきました。自分もその近くで3匹見つけ、全部で7匹見つけました。このうちの3匹を落としてしまって結局4匹を採取しました。

林の中には、コナラ、ノグルミ、アラカシ、ソヨゴ、アセビ、ウツギなどが生育していました。



林の中の様子



林の中のコナラの木の根元で探している様子

あまりにも小さいので見つけるのが難しく、いるという確信があったから探せたけれど、何処でもは探せません。ところが山から出ながら息子が土の中を探すと、また幼虫が出てきました。「いた、こりゃあ、そこら中いそうななあ、だいぶ踏みつぶしとるかもしれん、早いこと山から出よ！」と言いながら林から出ました。



長さ3mm程の小さな筒巢(中に幼虫がいる)。地表面から約5mm程の、少し湿った土の中にいた。



2006年、ヤマトビイロ トビケラを再調査

1) 岡山市牟佐大久保の山の中

2006年5月5日、午前10時頃から、自然保護センターの森さんと息子と3人で岡山市牟佐大久保の山に入り、ヤマトビイロトビケラの幼虫を探しました。1分も経たないうちに息子が見つけ、3人で幼虫がいそうなところの落ち葉をソーッと除けると、何匹か出てきました。コナラやアベマキの木の根元にもいましたが、標高45m前後の苔のはえた石の近くでよく見る事ができました。山を登って行くと見つかる数がだんだんと少なくなりました。



幼虫は木漏れ日が当たる苔むした石の近くで多く見つかった。



幼虫のいる様子(落葉をソーッと除けてみた)



小さな土の窪みで見つけた筒巢。
生きているのかどうかはわからない。



食事の様子

よく見ると幼虫が何かを食べていました。コナラの花のつぼみの皮のようでした。幼虫は上から落ちてくる、ちぎれた葉やコナラ、アベマキなどの花などを食べていたようでした。しばらく観察して、また落葉をソーッと戻しました。

2) 岡山市御津高津の山の中

12時前に大久保を出発し、高津へ移動しました。ごそごと、枝をかき分けて山の中に入っていき、探してみました。標高は90m前後で、昨年より少し下へおりました。ヤマトビイロトビケラの幼虫がよ



幼虫を探している森さんと息子



ヤマトビイロトビケラ雄成虫(全長約12mm)

高津の山の中では枯れ葉の上を見た瞬間に枯れ葉の下からびよんと成虫が飛び出てきたので、あわてて捕まえました。次に見たのは、低い枝の位置から同じ場所の枯れ葉の上に飛び降り、枯れ葉の中にもぐり込んだところです。探してみると、まるまった枯れ葉の中に入っていました。ひょっとすると枯れ葉の下に雌が?と思って探しましたが見つかりませんでした。

出来ればまた来年挑戦し、ヤマトビイロトビケラの雌がどんなところにいるか見つけたいし、どんなところへ産卵するかをつき止めたいと考えています。